



## 第41回 町民のつどい 青少年意見発表

「二刀流とぼくの未来」 宮水小学校 6年 鮫島 丞 さん

みなさん、この写真を見てください。ぼくが神楽を舞っている写真です。もう一枚、見てください。大人歌舞伎に出演している写真です。もう気付かれましたか。そうです。ぼくは、神楽と歌舞伎の二刀流です。始めから二刀流をめざしていたわけではありません。

ぼくが神楽を始めたのは4年生で、歌舞伎は6年生です。歌舞伎は、大人の丹部俊夫さんにさそわれたのがきっかけで、顔に濃いお化粧をするのをやりたくて始めたというのもあります。どちらも、何か考えがあって始めたというよりは、自然にという感じです。

「歴史や伝統を守っていかなければいけない」と言われますが、神楽や歌舞伎も地域の行事の中に当たり前にあったので、自分が始めるのも自然だったと思います。ただ、兄たちへの憧れはありました。神楽を舞う兄たちを見て、「かっこいいなあ、自分もなりたい」と思っています。だから、やめたいと思ったことは一度もありません。「兄たちのあとに続き、兄たちのようになる」と思つてきました。

しかし、「いつまで続けるのか、大人になっても神楽や歌舞伎を続けるのか、日之影にずっと住み続けるのか」ということについては、ぼんやりとしか考えていませんでした。テレビや映画に出てくるスタントマンがかっこよくて、何となく将来の夢はスタントマンかな、と思ったり、「日之影のいいところは?」と聞かれたら、「ぼくにとっては当たり前の日之影の自然や、家族や友達や地域の大人たちと過ごす当たり前の日常が好きなことかな」と思つたりしてきました。

そんなときに、ぼくの未来を、具体的に塗り替えるきっかけがありました。それは、職場体験学習「わくわくワーク」です。ぼくは、工事現場で重機を扱う体験と、機械を使った農業体験に参加しました。写真を見てください。これは、ショベルカーを運転している様子です。これは田植え機を運転している様子です。これはドローンを操縦している様子です。ドローンは、農薬の散布に利用するそうです。

体験をする中で、「この機械を、また運転したいな、アグリファームで働くのも未来にあるかも、教えていただいた方たちは、やさしいなあ、こんな方たちと一緒に仕事をしたいなあ、仕事を習いたいなあ」そう思ったのです。今まであまりはっきりしていなかった自分の未来が、少し具体的になりました。

「もしさアグリファームで働くなら、日之影に住むことになるな、大人になったら小学生に仕事の大切さを教えているかもしれないな、体験を教えてくださった工藤さんや平田さんのように、やさしい大人になっていたいな、その頃には、兄たちが付けているお面を、ぼくがかぶって神楽を舞っているだろうな、大人になったぼくは、後輩たちに歌舞伎を指導しているかもしれないな」そんな未来を思い描いたのです。

裏面に続きます

それは、ぼくにとっては驚きの体験でした。ぼくにとって、歴史や伝統があるものを守るということは、こういうことかもしれない気付きました。

神楽や歌舞伎の先輩として、兄たちや地域の方がいること、やさしく魅力的に仕事のおもしろさを語り教えてくれる大人たちがいること、自然あふれる日之影の中で、伝統やくらしを守り続けてきた地域の人々がいること、その大切さと良さを改めて感じられた「わくわくワーク」の学習は、未来をあまり見ていなかつたぼくに、考えるきっかけをくれました。

ぼくなりの二刀流の未来が、少しずつ見えてきました。

二刀流がんばります！



町民のつどいの様子は、学校ホームページにも掲載しています。  
青少年意見発表：「学校の様子」その他の様子：「PTA活動・CS・地域の活動」